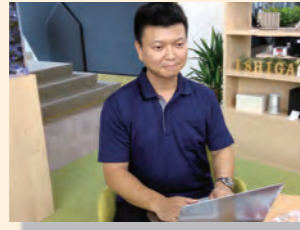


はじめまして

New Staff

チーム ZAITAKU の「新メンバー」を紹介します。

医師 谷口 毅



出身地 京都府京都市

休日の過ごし方

これまでは休日でも仕事に
いかなければならないこと
が多かったですが、
徐々に子供たちとの時間
を増やしていきたいと
思っています。

趣味

バーベキューをするのが
好きでたまの休日に庭で
火起こしをしています。
ただ子供たちは焼いたお
肉以外に興味を持ってく
れず、すぐに家の中に入
ってしまうのが悲しいで
すね。

その他

元々は理学部で物理学を専
攻していたことや医師に
なつてからは主に画像診断
に従事していたこともあり、
日々の合間に機械学習
による画像診断（いわゆる
AI 診療）を勉強、研究して
います。機械でできること
は機械に任せて、本当の意
味で医師が患者さんを診る
ことに集中できる時代がす
ぐそこまできているように
感じます。

最後に一言

まだまだ未熟者ですが地域に根ざした医療を目標に
頑張ります。

医師 二宮 淳



出身地 三重県四日市市

休日の過ごし方

家族で過ごし最近一歳に
なった長女の育児を楽し
んでいます。許しがもらえ
れば釣りに出かけます。

趣味

大学生の頃に釣りを覚え、
堤防釣り→磯釣り→船釣
りとステップアップしま
した。釣った魚をさばいて
家族や友人に食べさせる
のも好きです。

草野球、ドライブ、お笑いな
ども。

その他

自分の知らない世界・業界
の話も興味津々です。（料
理、芸術、家庭菜園、経済な
ど）人とお話するのが大
好きですでお気軽に話し
かけてください。

最後に一言

訪問診療はこれまで依頼する側でしたが、これからは
実際の現場・ベッドサイドからいろいろと学びたい
と考えております。何より患者様やご家族に「ここぞの一言」
がかけられる心優しい主治医になりたいと考えております。
精一杯頑張りますのでよろしく
お願いいたします。

出身地 四日市市

休日の過ごし方

映画鑑賞やドライブなど
を楽しみ気分転換してい
ます。

好きな食べ物

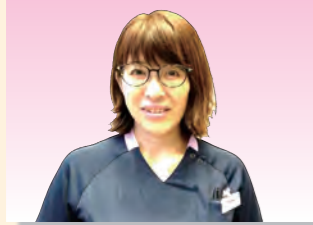
スナック菓子（コレステ
ロールが気になります
が・・・）

その他

昔は富士登山やホノルル
マラソンに参加していたの
ですが、今は膝が痛むので
軽く体を動かすことです。

最後に一言

私は、長年病院で看護師をしてきましたが、在宅医療は新人です。わから
ないことだらけでご迷惑をおかけしますが、早く在宅看護師の働きができるよ
うに努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



皮膚・排泄ケア認定看護師
鈴木 美奈子

ケアマネだより

9月1日は防災の日
防災対策はしてみえますか？

最近、豪雨や台風、地震などの天災による被害が数多く発生しており、それに
加えコロナのこともあり、大変生活しにくい世の中になっていますね。災害の
ニュースを見るたび、いつでも避難ができるよう、日頃からの備えが必要にな
てくると考えさせられました。私たち居宅介護支援シリウスでも、慌てず行動が
できるように定期的に避難経路の確認や必要な物品の補充・確認を行ってい
ます。必需品として、防災ラジオ、懐中電灯、卓
上コンロ、ガスボンベは当院にあり、使用状態
を確認し、置き場所を決めました。足りない物
もいくつかあり、これから準備が必要です。

皆さんもいつ避難生活になっても困らないよ
うに、事前の防災用品の準備や確認をしてい
たくようお願いします。



看護師だより

私たちが初めて A さんにお会いしたのは、2 年ほど前になります。自宅療養を送る中で、体調の思わ
しくない時も乗り越えながら過ごされてきました。

以前はガス会社にお勤めだった A さんは、プロパンガスの子会社を立ち上げ、自らが社長となり部下
の指導や教育にも力を注がれていたそうです。「ガスというのは、危険なもの。事故が起こった時は命に
関わる。」という使命感の元、自然災害が発生した時には徹夜で会社に詰め、お客様の安全を第一に考
えていたそうです。商売敵から嫌がらせもあったようですが、A さん自身の営業手腕と人柄で、お客様の
信頼を勝ち取られてきたそうです。会社の部下には特にうるさく指導はしなかったようですが、「責任
は自分が取る」と、のびのび仕事ができる環境を作り、人と人とのつながりを大切に、思いやる気持ち
を持ち続けることで部下からの信頼もきっと厚かったに違いないと感じました。



今は奥様と愛犬のクウちゃんと、自宅療養されています。調
子の良いときは、リビングでお喋りしたり、近くを散歩して過
ごしてみえます。自宅に訪問して実感したことは奥様がとて
も朗らかで、献身的に A さんを支えて下さっていることでし
た。A さんが「立派な奥様」と仰られていましたが、家庭を顧み
ず仕事中心の生活だった時も、奥様への信頼感があってこそ、
仕事に打ち込める環境だったのだろうなと思ひました。これ
からもお二人仲良くお過ごしください。



管理栄養士だより



O さん(87歳)は誤嚥性肺炎のリスクが高いため、介入当初の栄養は中心静脈栄養で、経口摂取はペ
ーストやゼリーをお楽しみ程度召し上がっている状態でした。ご本人やご家族は、「早く口から食べ物
を食べたい。」「点滴を外したい。」といった思いが強く、ふかつ歯科の深津先生、主治医と連携をとり
ながら進めていくことになりました。

嚥下評価の結果、軟飯 軟菜一口でも摂取可能であることが分かりましたが、ペースト食から軟菜一
口大への急な変更はご本人もご家族も不安が強かったため、食形態を少しずつ変更していきまし
た。また、深津先生と主治医とは現在どのような食形態の物をどの程度召し上がっているか、経口からの栄養
量はどの程度か等の連絡を取り合い、O さんにはどの程度召し上がる量を増やしたら点滴を外せるのか、
どのようなものが良いのか等を指導しました。

関わらせていただいてから約1か月後には食事から800~900kcal摂取可能となり、中心静脈栄養の
量が半分に減りました。また、その約1か月後には食事から1100~1200kcal摂取可能となり、中心
静脈栄養から完全に離脱することができました。

離脱後約3か月が経過しましたが、現在も経口摂取のみで元
気に過ごしていらっしゃいます。完全に離脱した日、素敵な笑顔で
「点滴外れましたよ！！もう嬉しくて嬉しくて！！これで自由に
風呂に入れる！！」とご夫婦でとても喜んでおられたことを今
でも思い出します。

これからも患者様やご家族の思いに応えられるよう、少しずつ
寄り添いながら指導を行っていきたくと思ひます。今後ともよろ
しくお願ひいたします。
管理栄養士 藤田みどり

